

## 第26回テーマ:六甲山の

## 景観計画を考える



改修中の自然保護センター

## 講演内容

- ①日本庭園の美
- ②六甲山は世界の都市林
- ③六甲山の景観計画を考える

実施日：平成17年5月21日（土）  
午後1時～3時40分  
場所：六甲山自然保護センター内  
レクチャールーム



講師：中瀬 勲さん

## プロフィール

1948年大阪府生まれ。大阪府立大学農学部卒業、同大学院農学研究所修士課程修了。カリフォルニア大学客員研究員等を経て兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授、兵庫県立人と自然の博物館副館長。

## さわやかに3年目の踏み出し

六甲山は初夏を思わせるさわやかなお天気でした。自然保護センターは屋根や外壁を改修中で、六甲山ガイドハウスの完成に続いて記念碑台の様子が変わりつつあります。

午前中は当会の総会を開催し、3年目の事業活動を本格的に稼働しました。午後からは、来賓でお越しいただいた県立人と自然の博物館副館長の中瀬勲さんに記念講演をお願いしました。



あずまやの前でテーブルを設けて、のんびりとお弁当を楽しむ皆さん

## 「体当たりでの勉強」を重視

中瀬さんは『みどりのコミュニティデザイン』他、多くの著書がある景観計画分野の第一人者です。専門家として行政からの委嘱やNPO支援でもご活躍です。

今回は、日本庭園の美意識や外国の景観事例等を前段にして、六甲山の景観計画のあり方についてお話いただきました。中瀬さんは「私の教育技法は体当たりでの勉強だ」と、実践の大切さを強調されていました。気さくなお人柄にはとても親近感がわき、皆で楽しくお話を聴きました。

## 景観計画はみんなで作るもの

質疑応答も活発に行われました。中瀬さんは、これまで景観に関わる計画は行政がつくっていたが、これからは参画と協働の緑づくりが大切で、一般市民がビジョンや運営を考える時期に来ていると話されました。六甲山はみんながつかう山、みんなで提案をしようと投げかけられました。

## 考える方向がわかってきた

今回のお話で自然との共生や公園のバリアフリー化など、海外の景観づくりの先端事例も知りました。これからの六甲山の景観計画を考えるヒントを得たように思います。今後の市民参画について大いに励ましていただきました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

## 参加の感想 福永 一登さん

中瀬先生のお話をいろいろと聞かせていただいて、今後の六甲山の姿がいかにあるべきかを自分の中でも考えるきっかけになったと思います。

特に日本庭園やドイツでのピオトープの取り組み方や、小さいときからの環境教育の徹底などの話を聞いたときには、本当になるほどなあと思うことしきりでした。これからも六甲山の景観をよくするために自分も何らかの形で関わりたいと思います。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会  
協力：兵庫県立人と自然の博物館  
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】  
(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会



# テーマ：六甲山の景観計画を考える



## 第26回市民セミナーの流れ

### 市民セミナー

1. あいさつ：13:00~13:15
2. 講演：13:15~14:40
3. 休憩：14:40~14:55
4. 質疑応答：14:55~15:40

### 講演

- ①日本庭園の美
- ②六甲山は世界一の都市林
- ③六甲山の景観計画を考える



いろいろな事例を聞く

## 講演のあいさつ(中瀬 勲さん)



中瀬 勲さん

私は30数年間造園学、景観学を勉強しています。博物館の宣伝ですが、生涯学習や環境教育を応援していきまして、たくさんのセミナーを行っています。講義内容は濃密ですので、是非参加してください。

### 講演内容

スライドを用いて日本庭園の美や外国の景観事例等を解説いただきました。そして、事例を参照しながら六甲山の景観計画についてお話を進めていただきました。

#### 1. 日本庭園の美

##### ■日本人の美意識

日本人の美の対象は大木や山々、雷など自然への恐れや神秘であり、自然をDNAとした美意識を持っている。

日本民族は桜が大好きだが、それは桜が散るからである。外国でお花見をしている人を見かけるが、大半が日本人である。こうした美意識の背景には、仏教や死の概念などが存在する。

##### ■日本庭園のデザイン ~借景と縮景~

借景は日本のオリジナル。六甲山を考えた場合、神戸の街を借景していると言え、逆に神戸は六甲山を借景しているとも言える。神戸から六甲山を取ってしまうと面白くない街になってしまう。

縮景とは、距離を縮めて五感を通じて美を感じ取る技法。距離が近くなった分、触覚や嗅覚で感じ取ることができる。

日本庭園にはストーリーがある。映画は短いカットを時系列化したものだが、日本庭園では視線を灯笼に注目させるなど、景色の一部を意図的に隠すことで部分(カット)に分けられていて、全体のストーリーが構成されている。

##### ■景観は五感で感じる

景観は「見る」だけではない。水琴窟やししおどしなど、「聞く」景観もある。日本庭園を歩けば足の裏でも感じる。触る、匂う、聞くなどいろいろな感覚を使う。桂離宮や修学院離宮などの庭園は、世界の宝物である。



修学院離宮



桂離宮

#### 2. 六甲山は世界一の都市林

##### ■神戸の魅力は六甲山

「日本の庭園は世界で最も美しいのに、なぜ街は汚いのか。」と、外国人の留学生によく聞かれる。私たちは街の汚さに慣れてしまっている。では六甲山はどうするべきなのか。

六甲山は、神戸近辺の人達にとっての原風景かもしれない。海外の山のない街に行ってみると、神戸が六甲山によっていかに魅力的になっているかがわかる。

音や香りも全部景観の一部である。英語の「ランドスケープ」は「見える」が基本で、ドイツ語の「ランドシャフト」は「地域的な広がり」を指す。六甲山ではこの2つを採り入れて考えたい。

##### ■世界に通じる都市林

日本の観光地は、松島や天橋立など海際であったが、明治以降、内陸へ拡大した。六甲山は元々里山ではなく奥山であり、それが都市林へと変わった。六甲山の開祖と呼ばれるA.H.グルーム氏が森林の楽しさを日本に紹介し、内陸の美意識を教えてくれたのである。六甲山は日本の近代レクリエーション発祥の地である。

世界の名だたる都市には都市林がある。ニューヨークにはセントラルパーク、パリにはフォンテーヌブローの森、神戸には六甲山である。

六甲山は世界一の都市林であり、六甲山を活用すればするほど都市林としての価値は大きくなるだろう。



日本初のゴルフ場

### 3. 六甲山の景観計画を考える

#### ■住民参加で考えたい

六甲山の景観計画は、今までは専門家や欧米人が担ってきた。これからは我々市民が考えなければならぬ。観光をレクリエーション、レクリエーションをエコと呼びかえるだけではいけない。

ウィーンの森は、平日働いた人が健康を取り戻す場所である。六甲山も同じだ。環境教育や生涯学習の拠点となってもいい。

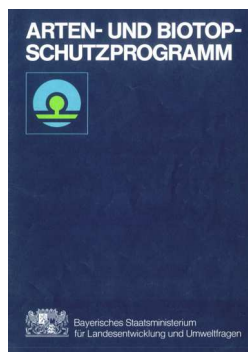
六甲山グリーンベルトの構想は、住民参加でなければいいものがないかもしれない。また、山頂や山腹にどんどん増えている住宅地との兼ね合いは課題である。動物は住まいをつくるのに、自然を利用してちゃんとつくる。人間の方が家づくりは下手かもしれない。動物の身になることも必要だ。

#### ■ドイツでは生き物を含めた土地利用計画

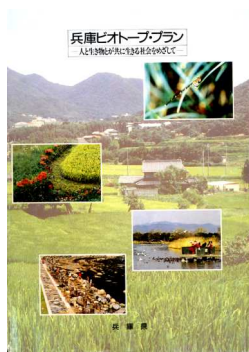
ドイツには緑の党の流れがあって自然保護が当たり前になっており、「生き物を含めた土地利用計画」=ABS Pがある。ABS Pは市民参加でつくられ、高層住宅地や工業地域から軍用地まで、地域全体がビオトープとされている。

ドイツのミュンヘン空港には、真ん中に大きなグリーンベルトが通っている。開発工事をする前に生き物への対応が考えられている。

日本の場合、ABS Pが無い状態で、ケースバイケースで意見を言うから進展しにくい。六甲山でも生き物のためのビオトーププランをつくるべきだ。



ドイツのABS P



兵庫のビオトーププラン

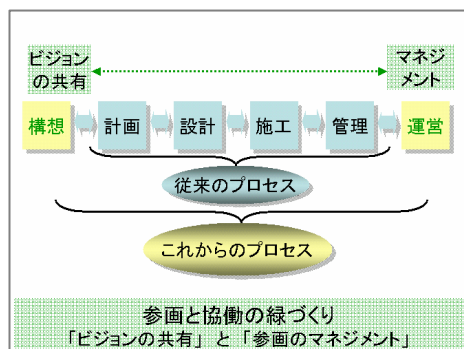
### 質疑応答・感想など

ビオトープの意味は？ : B I O (生き物) + T O P (空間) で生き物の住む空間。日本ではトンボの池や学校の池など、矮小化されてしまっているが、本来は地域全体を含むものである。

景観計画は、一市民としてどうやって作ればいいのか？ : いろいろな人を呼んできてチームをつくり、N P Oが提案すればいい。但馬・丹波など都市計画がないところには緑条例があって、集落の人が「こうしよう」という提案に行政が合意するという仕組みになっている。六甲山でも勉強会を開いて、行政の担当者に話を聞いてもらい提案していけばいい。  
老若男女が楽しめる公園はあるか？ : シドニーの公園やニュージーランドの幼児教育が先進事例。

### 六甲山のビジョンをつくろう (まとめ)

今まで公園づくりにおいても、構想と運営が欠けていた。昔はグルーム氏のように「個人」の六甲山のビジョンがあった。しかし現在は、六甲山をどうしようという「共通」のビジョンがない。ABS Pみたいなものを皆さんでつくっていったら素晴らしいのではないだろうか。



### 事務局より

今回、景観計画に関する国内外の事例をたくさん知ることができました。六甲山の景観計画を考える上で参考情報やヒントを得ました。みんなで考え、提案することを考えていきたいと思えます。

#### ◆参考・配布資料など

- ・スライド、レジュメ
  - ・県立人と自然の博物館案内パンフレット
  - ・ひとはく手帖 (2005年セミナーガイド)
  - ・プチシンポジウム3 報告書
- 『21世紀の六甲山を見渡そう』

兵庫県立人と自然の博物館  
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目  
TEL : 079-559-2001 FAX : 079-559-3007  
URL : <http://hitohaku.jp/> Mail : [root@hitohaku.jp](mailto:root@hitohaku.jp)

#### ◆参加者の感想 ~アンケートより~

- ・各地の日本庭園を気持ちよく拝観しているが、精密に縮景や借景が配慮されていることに感動した。
- ・ニュージーランドの幼児の自然教育は感心した。
- ・懇親会はファミリーな雰囲気です話ができ楽しかった。

#### ◆参加者 : 28名 (順不同・敬称略)

中瀬 勲 八木 浄 村上 定広 大谷安規永  
小坂 忠之 浅井 審一 澤田 中 鈴木 武  
青木 孝子 泉 美代子 田中 有司 久保 順一  
中垣内 博 北山健一郎 新木 里志 田中 弘子  
山口 紀子 中務 勝子 福永 一登 堂馬 佑太  
堂馬 英二 桑田 結 米村 邦稔 松井 光利  
小野 律子 中川貴美子 藤井宏一郎 菖蒲 美枝